

お礼のことば

吾妻の山並みの雪もほとんど消え、松川沿いの新緑のまぶしい季節となってまいりましたが、皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は、松川コミュニティセンター様のご好意により、松川地区の皆様を始め、国際ソロプチミスト米沢の皆様など多くの皆様から、本学の学生のために、全部で2.8トンを超える多くの食品、ならびに日用品の支援を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

早速、職員の指導のもと、学生たち自ら仕分けを行い、必要とする学生に、いただいた品物を配布することができました。頂戴しました食品は、米はもとより、パスタ類、種々の缶詰、さらにはパスタ用のソースやカレーなどのレトルト食品まで多岐にわたり、特に米は、いただいた銘柄をどれも味わってみたいという学生の希望もあり、小分けにして配らせていただきました。

新型コロナウイルス感染症の流行という、人類史上にも残ると思われる巨大な災厄に見舞われたこの一年以上に及ぶ時間を、本学の学生たちは、マスク着用の義務と課外活動や会食あるいはアルバイトの制限、さらには他県を始めとする他地域への移動の制限といった、厳しい環境の中で過ごしてまいりました。状況は、まだまだ予断を許さず、この連休も、学生たちには極力活動を自粛するように求めざるを得ません。そのような状況の中で、ステイホーム生活を強いられる学生たちは、経済的にも大変厳しい状況に置かれております。

その学生たちの窮状を見かねて、地域の皆さんが、支援のために立ち上がってくださったことに、学生たちを預かる身として、胸が熱くなる思いとともに深い感謝の気持ちを抱きました。

そのことは、また、本学の学生が、どれほど地域の皆様に愛されているかということの証でもあります。今更言うまでもなく、ずっと以前から、今日まで、本学の学生たちは、皆様からの有形無形の応援に支えられて学生生活を送ってまいりましたし、今も送っております。アルバイトもままならない状況で、経済的にも厳しい状態にある学生も少なくないと聞いております。そのような中で、皆様から寄せられたご支援に、改めて心よりの感謝を申し上げたいと思います。本来なら、皆様お一人お一人に直接お会いしてお礼の気持ちをお伝えしたいところですが、まずはこのような形でも私の思いをお伝えしたいと考えた次第です。

本当に、ありがとうございました。また、今後とも本学の学生をよろしくお見守りいただきますようお願いし、私からのお礼のご挨拶といたします。

令和3年5月吉日

山形県公立大学法人 理事長

山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学 学長
阿部 宏慈